

青年期のパーソナリティ・タイプとその特徴

- 自己概念、自尊心、アタッチメント・スタイルに注目して -

川本哲也

(東京大学大学院教育学研究科)

【問題と目的】 人間のパーソナリティの構造についてはビッグファイブ(性格の5因子モデル)がコンセンサスを得ている(John et al., 2008)。しかし、人のパーソナリティに対しビッグファイブのような変数志向的アプローチを用いるだけでは個人内のパーソナリティの動的な構造を明らかにできない(Block, 1995)。そこで近年、パーソナリティ特性からいくつかのパーソナリティのパターンを抽出し、そこから普遍的なパーソナリティ・タイプを得ようとする個人志向的アプローチを用いたパーソナリティ研究が行われるようになってきた。欧米では、青年期におけるパーソナリティ・タイプは五因子全ての得点が高い適応的なレジリエント群(resilients)、情緒安定性と外向性の低い過大統制群(overcontrollers)、調和性、開放性、誠実性の低い過小統制群(undercontrollers)の三タイプに分かれることが知られている(e.g. Robins et al., 1996)。そこで本研究は、青年期においてみられるパーソナリティ・タイプを潜在クラス分析を用いて確認したうえで、各タイプの自己と対人関係の特徴を検証することを目的とする。

【方法】(1) 調査対象者 大学生 1025 名 (男性: 330 名, 女性: 685 名, 未記入: 10 名, 平均年齢: 19.4 歳 (レンジ: 17-25 歳, SD = 2.5))。 **(2) 手続き** 質問紙法。 **(3) 質問紙構成** ①フェイスシート ②村上・村上(1997)の主要五因子性格検査 ③Rosenberg (1965)の Self-Esteem Scale の邦訳版(山本・松井・山成, 1986) ④中尾・加藤(2004)の ECR-GO ⑤Campbell et al.(1996)の Self-Concept Clarity Scale を調査実施者が翻訳したもの ⑥Self-Concept Stability Scale の邦訳版(小塩, 2001) **(4) 分析手法** Amos ver.19 を用い、主要五因子性格検査の結果から潜在クラス分析によってクラスターリングを行った。その後クラス間での自己概念の変わりやすさと曖昧さ、自尊心、アタッチメント・スタイルの差異について、SPSS ver.19 を用い ANOVA によって分析した。

【結果・考察】 潜在クラス分析の結果 主要五因子性格検査に基づくクラスターリングの結果、青年のパーソナリティ・タイプは以下の三つに分類されることが示唆された(各クラスのビッグファイブスコア平均の推定値は Figure を参照)。 **クラス 1:** 情緒安定性以外の特性はほぼ平均的な群。 **クラス 2:** 外向性、調和性、情緒安定性が高い群。先行研究におけるレジリエント群に相当すると考えられる。 **クラス 3:** 情緒安定性が特に低い群。先行研究における過大統制群に相当すると考えられる。本研究では先行研究における過少統制群に相当する群が得られなかった。この点については欧米諸国と東アジア圏の文化差、または大学生というサンプルの偏りが原因と考えられる。

一要因分散分析の結果 各クラスの特徴を、自己と他者との関係性に注目して明らかにするために、一要因分散分析を行った。各クラスを要因とし、自己概念、自尊心、アタッチメント・スタイルの標準化得点を従属変数とした分散分析の結果、全ての変数において要因の有意な主効果(1%水準)が確認された。そこで Tukey 法による多重比較を行った結果、クラス間で 1%水準の有意な差が得られた。その結果から、クラス 2 が最も自尊心が高く、自己概念も明確かつ安定しており、安定的なアタッチメントが築けていることが明らかとなった。一方クラス 3 は自尊心が最も低く、自己概念が不明瞭かつ不安定で、アタッチメント・スタイルにおける不安と回避が共に高い。クラス 1 はクラス 2 と比較して、自己概念がいくらか不明瞭であるが安定性は同程度である。アタッチメント・スタイルにおいても不安はクラス 2 と同程度に低い、回避傾向は有意に高い。クラス 1 は、クラス 2 と比較してあまり対人関係に深くコミットせず、結果明確な自己概念が築けていないことがうかがわれる。

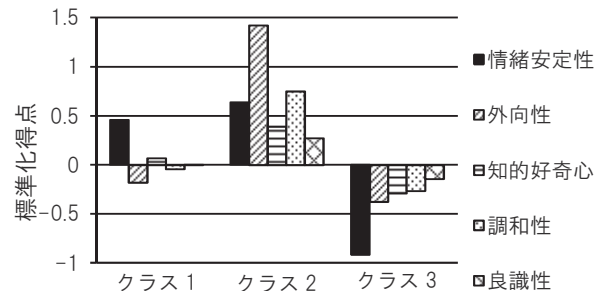


Figure 各クラスのビッグファイブの平均の推定値

本研究では先行研究における過少統制群に相当する群が得られなかった。この点については欧米諸国と東アジア圏の文化差、または大学生というサンプルの偏りが原因と考えられる。

Table 各クラスの自己概念・自尊心・アタッチメント・スタイルの平均値

	クラス 1 (N = 478)	クラス 2 (N = 164)	クラス 3 (N = 382)
自己概念の変わりやすさ	-0.14 ^b	-0.16 ^b	0.23 ^a
自己概念の曖昧さ	-0.12 ^b	-0.42 ^c	0.32 ^a
自尊心	0.17 ^b	0.63 ^a	-0.50 ^c
見捨てられ不安	-0.29 ^b	-0.47 ^b	0.56 ^a
親密性の回避	0.01 ^b	-0.72 ^c	0.29 ^a

注) a > b > c (1%水準)